

8. 展望・明日に向かって



瀬戸大橋（岡山県瀬戸大橋架橋記念博覧会協会提供）

本州と四国との海峡部(9.4km)に架かる橋は6橋あり、このうち写真手前の下津井瀬戸大橋は1,447m（中央径間940m）である。昭和63年4月から供用開始される。

現在、神戸港では、昭和56年に完成したポートアイランドに次ぐ第2の人工島六甲アイランドがその8割の埋め立てを終え、既にコンテナバース等の一部が稼働している。また、ポートアイランド第2期工事も進められており、これが完成すれば我が国では初の水深15メートルの大型コンテナバースが誕生する。さらに、昭和68年開港を目途に建設工事が進められている関西国際空港への航空貨物及び旅客の輸送基地として、KACCT（神戸エア・カーゴ・シティ・ターミナル）やKCAT（神戸シティ・エア・ターミナル）の設置も計画されている。

一方、管内では、岡山、高松、広島等各地でジェット機の離着陸が可能な空港の新設や滑走路の拡張が行われ、本州・四国連絡橋3ルートの建設工事や高速道路網の整備が着実に進められている。

これら、基幹交通体系の整備は、情報メディアの一層の発達と相まって、管内の物流動向、産業構造に大きな変化をもたらすものであり、既にこれら空港周辺には、ハイテク産業を中心とした臨空型産業が立地するテクノポリスの建設が始まっている。

戦後、輸出振興を国策として復興、発展を遂げ、今や国際社会に重要な地位を占めるに至ったが、我が国を取り巻く環境は極めて厳しく、諸外国との深刻な貿易摩擦解消への適切な対応が求められている。特に最近の急激な円高等経済環境の変化は、製品を中心とした輸入の促進と我が国企業の海外進出など貿易構造に大きな変化が現われている。

他方、近年、覚せい剤、銃砲等社会悪物品の密輸入は大口化し、その手口はますます巧妙化する中で、これらの水際における摘発、防あつ、さらに、コム関連物品の不正輸出に対する取締りなど税関の持つ「関的機能」は一層重要度を高めている。

こうした内外の情勢を正しく見極め、的確に対応していくため、從来にも増して税関職員に求められるものは、豊富な専門知識と幅広い視野、そして豊かな国際感覚であろう。

120年の節目を迎えた今日、我々は、その長い歴史を顧みるとともに諸先輩の不断の努力によって築かれた良き伝統と教訓を受け継ぎ、更なる発展のため、明日に向かって力強く踏み出して行きたい。